【特別活動】中学校

１．題材名「がん患者への理解と共生」

２．題材について

(1)　題材設定の理由

本題材では，がん患者への理解を深めるとともに，がん患者との共生を図ることができる生徒の育成を目ざしている。特に本時では，がん患者の手記を教材として用いることで，がん患者やその家族に対する理解，そして周囲から支え共生することの大切さに気付くよう心掛けた。そして終末では，学級における話合い活動を踏まえて自らの行動を考える機会を設定する。

(2) 報告書の内容の位置づけ

がん患者は増加しているが，生存率も高まり，治る人，社会に復帰する人，病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが，社会生活を行っていく中で，がん患者への偏見をなくし，お互いに支え合い，共に暮らしていくことが大切である。

３．指導のねらい

- がん患者に関わる諸問題に関心をもち，互いに支え合おうとする心情を培う。
- 社会の一員としての自覚と責任を認識し，がん患者に対する画一的な見方をなくすことができたり，がん患者と共生したりすることができるようにする。
- がん患者の悩みに気付き，望ましい関わり方について理解することができるようにする。

４．事前の活動

- 学習内容の通知と，実態把握のためのアンケート（保護者）
- がんやがん患者に対する，関心，意欲，態度，考え方などに関するアンケート（生徒）

５．本時の指導と生徒の活動

（１）本時のねらい

- がん患者に関わる諸問題に関心をもち，互いに支え合おうとする心情を培う。
- がん患者との望ましい関わり方について理解することができるようにする。

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点(◆評価)
導入	１． 親のがんが，その子供の生活に及ぼす影響についての予想をワークシートに記入し，発表する。 〈予想される反応〉 ・ 治療費などがかさみ，経済的な面で苦しくなる。 ・ 親の看病で，精神的にも肉体的にも大変になる。 ・ 子どもが親を支えるのは難しい。	○身近な人をがんで亡くした生徒がいる場合，様子を観察するなど，十分配慮する。 ○実施したアンケートの統計を掲示する。 ○資料１・２を参照する。 ○がん患者やその家族を支える大切さの上に立ち，望ましい関わり方について考えることを確認する。
	目標：がん患者やその家族との望ましい関わり方について考えよう。	
	発問１　もし，自分ががんにかかったら、周りの人たちに対してどのように接してほしいですか。	
	２． 自分が周りの人たちに対して望む接し方について，ワークシートに記入し，小グループで話合う。 〈予想される反応〉 ・ がんについて，一切触れずに話しかけてほしい。 ・ 病状を心配し，できるだけ見舞いに来てほしい。	○グループを形成し，話合い活動に取り組むよう指示する。 ○小グループで話合った内容を発表するよう促す。

展開	３．　資料を読み，がん患者やその家族が望んでいる関わり方を理解する。 〈予想される反応〉 ・　何でもない話をして，一緒に笑って，共に過ごすことが大切なのだと感じた。 ・　ふだん通りの対応をすることが望ましいことであると気付いた。	○資料３を提示する。 ○自分たちが話し合った考えと資料３を比べて，がん患者の気持ちをより深めていけるよう促す。 ◆【関心・意欲・態度】 がん患者に関する諸問題に関心をもつことができる。（発言）
	発問２　なぜ「がんになって悪いことばかりではなかった」と言えたと思いますか。	
	４．　資料を読み，ワークシートに記入し，自らの考えを発表する。 〈予想される反応〉 ・　前向きな気持ちになれる出来事があったから。 ・　周りが励ましてくれたから。 ・　家族や友人の優しさに触れることができたから。	○資料４を提示する。 ○数名の生徒に発表するよう促す。
	５．　「がん」と診断されてから，悪いことばかりではなかったという考えに至るまで，どのような気持ちだったかを考え，発表する。 〈予想される反応〉 ・　苦しい日々だった。 ・　なにもかもが嫌になる時期だった。	○数名の生徒に発表するよう促す。
	６．　資料の続きを読み，がん患者の思いに共感する。 〈予想される反応〉 ・　がん患者が周囲から愛され，大切にされていると実感できるよう配慮することが必要なのだ。 ・　がん患者に対し，家族や友人は実際にどのように振る舞えばよいのだろうか。	○資料５を提示する。 ○もし，実際に家族や友人ががん患者になったら，どのような関わり方をすることが望ましいかを想起するよう促す。
	発問３　もし，がん患者を支える家族や友人の立場になったら，どのように関わることが望ましいか考えよう。	
	７．　各自でワークシートに記入し，グループで意見を交し合った後，学級全体で共有する。 〈予想される反応〉 ・　がん患者とのコミュニケーションを丁寧にとり，相手の思いや考えを理解した上で対応する。 ・　かえってがん患者が気をつかわぬよう，ふだん通りの振る舞いを心がけるようにする。	○多様な意見を聞くことができるよう配慮する。 ○出てきた意見を整理しつつ，自分の身の回りのがん患者をはじめ様々ながん患者との関わりについても想起することができるよう促す。 ◆【知識・理解】 互いに支え合うことの大切さを理解することができる。（発言）
まとめ	８．　教師の話を聞く。	○がん患者に対しての接し方に決まったやり方はなく，個々に応じた対応が必要であることを伝える。 ○自分ができることは，相手に対し思いやりの気持ちをもって接することが大切であることを伝える。

６　事後の活動

・　がんやがん患者に対する，関心，意欲，態度，考え方などに関するアンケート（生徒）